



## 事業承継キャンペーン2024



親族内承継  
コンチネンタルの  
事業承継事例

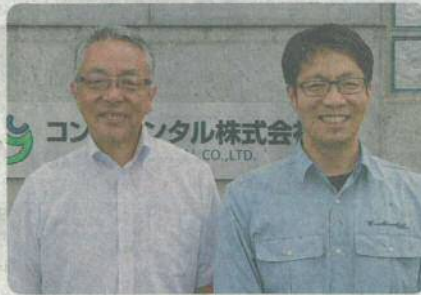
コンチネンタル株式会社

取締役会長

岡田 幸雄氏

代表取締役社長

岡田 俊哉氏



工作機械や半導体製造装置などの金属製品を製造。鋼板の切り出しからプレス、溶接、組立まで一貫生産体制を確立。多品種少量生産を得意とし、月間受注4000件の7割が一品物を占める。

いずれは父の後を継ぐ  
覚悟を決め、26歳で入社

コンチネンタルは1999年、現会長の岡田幸雄氏が仲間と3人で興した金属加工会社。創業以来、技術力を武器に顧客の多種多様な要望に応じ、事業を拡大してきた。幸雄氏の長男・俊哉氏は大学

トップ自らが退任時期を示し  
早期に計画を立てて進める

卒業後、公認会計士を目指し、専門学校に通っていたが、やがて家業を継ぐという意思を固め、2008年、同社に入社した。「どこかの会社に入ってサラリーマンをする自分は思い描けなかった。自分にとって働く大人の理想像は、経営者である父だったので」と話す。

そんな息子を迎えた幸雄氏は、一日も早く仕事を覚え、社員に認められることを願う「誰よりも早く入社して、最後に帰れ」と命じた。俊哉氏はそれを忠実に守り、現場作業からプログラミング、営業、配送まですべての業務を習得していった。

10年後の事業承継を見据え、  
経営基盤を増強

俊哉氏の入社から3年経った11年、幸雄氏は「あと10年、65歳で社長を辞める」と宣言した。「昔は技術の進歩も流行も、すべて時間がゆっくり流れていた。でも今は本当に速い。もう自分は追いつけないし、昔のやり方では社員も

ついてこない。早く世代交代するべきだと思った」と幸雄氏。その後は10年後の承継を見据え、設備投資と人材育成に注力していった。

18年、俊哉氏が代表権のある専務取締役に就任。翌年2月には「中期経営5カ年計画」を策定し、社長交代の時期を定め、新工場の建設計画も盛り込んだ。そして21年7月、俊哉氏が代表取締役社長に就任。同10月には新工場が稼働。盤石な経営基盤が整い、満を持しての社長交代となった。

円滑な事業承継を振り返って幸雄氏は「社長がいつ辞めるのか明言することが大事。社長が決断しない限り、周りが動けないからだ。承継には時間がかかる。早く決断するべき」と語る。

新しい企業像に向けて  
全社員で意識を統一

俊哉社長の明朗な性格と柔軟な思考は社内の雰囲気をも明るくし、社員の結束を強いものにしていく。就任前から尽力してきた採用活動は新卒・中途とも順調に進

み、この6年で20人を採用した。今年度は富山第一銀行の提案を受け、企業活動が環境・社会・経済にもたらす影響を分析、評価して資金調達を行う「ポジティブ・インパクト・ファイナンス」に着手。若手社員と銀行スタッフでプロジェクトチームを結成し、約半年をかけて1000年選ばれる企業になるための目標値を設定。今後、その達成に向け、銀行とともに具体的な取り組みを行っていくという。

俊哉社長は「100年後の企業像を社員全員で共有することができた。今後も社会から必要とされる企業となるため、従来の鉄工所に捉われない発想力、対応力、創造力で取り組んでいきたい」と展望を語る。

〈取材協力／富山第一銀行〉



コンチネンタル株式会社

富山市水橋沖172番地  
076(478)2324